

大腸癌研究会プロジェクト研究「虫垂癌の臨床病理学研究」第五回ミーティング議事録

日時：2019 (令和元) 年 7 月 4 日 (木) 15:00~15:30

会場：浜松町コンベンションホール 5F メインホール B

出席者：(敬称略、順不同、センターは C と表記) 村田幸一 (関西労災病院)、井上 彬、小森孝通 (大阪急性期・総合医療 C)、沖 英次 (九州大学病院)、水野 均 (日本生命病院)、横溝 肇 (東京女子医科大学東医療 C)、塩田哲也 (西神戸医療 C)、中西宏貴 (栃木県立がん C)、中西正芳、岸本光夫 (京都府立医科大学)、井出義人 (JCHO 大阪病院)、山口達郎 (都立駒込病院)、上杉憲幸、杉本 亮 (岩手医科大学付属病院)、水島恒和、武田 和 (大阪大学医学部附属病院)、瀧井康公 (新潟県立がん C)、板橋道朗 (東京女子医科大学)、日野仁嗣 (静岡県立静岡がん C)、所 忠男 (近畿大学病院)、三代雅明 (国立病院機構大阪医療 C)、小澤平太 (栃木県立がん C)、岡村 修 (市立吹田市民病院)、大久保和範、船橋公彦 (東邦大学医療 C 大森病院) 長谷川順一 (大阪労災病院)、石黒信吾 (PCL JAPAN)、木下敬史 (愛知県がん C)、安井昌義 (大阪国際がん C)、河合雅也、高橋 玄、八尾隆史、津山 翔 (順天堂大学)、若松和彦 (済生会栗橋病院)、豊島 明 (日赤医療 C)、橋口陽二郎 (帝京大学医学部附属病院)、須藤 剛 (山形県立中央病院)、西村潤一 (大阪国際がん C)、沖田憲司 (札幌医科大学第一外科)、舩石俊樹 (愛知県がん C)、前田 清 (大阪市立総合医療 C)、加藤 綾 (神奈川県立がん C)、番場嘉子 (東京女子医大)、向井俊貴 (がん研有明病院)、清松知充 (国立国際医療研究 C 病院)、神山篤史 (東北大学病院)、佐藤純人 (神奈川県立がん C)、牛込 創 (大阪国際がん C)、高村佳織里 (新潟大学医学部臨床病理学分野)

1. 進捗状況と論文作成のルール (委員長 関西労災病院消化器外科 村田幸平)

・登録数は 1 位がん研有明病院(92 例)、2 位都立駒込病院(71 例)で、3 位以下は 30 例台。両病院および事務局から論文を作成中。3 位以下の施設から論文テーマの提案があり、競合した場合は登録数の多い病院を優先する。

・論文希望施設には生データは見せるが、データ処理は統計の専門家と事務局で行う。

・本プロジェクトは、2020 年 1 月で終了予定。

・次の規約改定に向けて、LAMN を癌として扱うか、粘液癌のグレード分類を取り入れるか。また、StageIV に関して、IVA, IVB, IVC の亜分類は妥当か。などを提言していく予定。

・“LAMN を粘液癌 G1 としてよいか？”について病理医からのコメントを紹介

(順天堂大学病理 八尾隆史) LAMN が G1 で、signet ring cell を伴うものが G3。新しい WHO 分類では、HAMN は G2 に入っている。

(京都府立医科大学病理 岸本光夫) 文献によって、粘液癌 G1 は、LAMN と 100%同義ではない。粘液癌のグレーディングを使うことには賛成である。

・主論文で、全登録例の概要と、虫垂癌症例を TNM 分類に当てはめて、予後が妥当であるかを検証する。二番目の論文は、LAMN を中心とした内容になる予定。

・その他のテーマとして、追加切除の必要性、腹膜播種に対する有効な治療法、術後補助療法の効果、NET や NEC や胚細胞腫瘍の実態、などがある。

2. 集積データの二次報告（事務局 大阪大学大学院 消化器外科学 武田和）

・虫垂粘液腫(腺腫を含む): 282 例、粘液腺癌: 261 例、粘液腺癌以外の腺癌: 263 例。データ欠損を除外し、虫垂粘液腫(腺腫を含む): 267 例、粘液腺癌: 248 例、粘液腺癌以外の腺癌: 245 例の合計 760 例で解析した。

・虫垂粘液腫(腺腫を含む): 267 例の内訳は、腺腫: 5 例、LAMN: 192 例、不明: 70 例。腺腫の死亡例は無い。LAMN と不明の 5 年 OS は、ほぼ同じ。

・5 年 OS では、虫垂粘液腫(腺腫を含む): 92.0 %、粘液腺癌-高分化 G1: 87.8 %。後で提示する主論文では、一つにまとめて G1 としている。

・LAMN (192 例) 再発は 7 例 (3.7 %)。粘液腺癌-高分化 G1 (87 例) 再発は 6 例 (7.4 %)。

・LAMN (192 例) では、Tis が約 70 %、リンパ節転移は全くない。M1a/M1b/M1c; 5/5/4 例。LAMN で再発を来した 7 例は、T4 が 5 例、M 陽性が 4 例。5 例で腹膜播種再発。

・粘液腺癌 (248 例) で、グレード毎の OS は、G1 > G2 > G3 の順に良い。

3 主論文の内容と状況報告（がん研有明病院 大腸外科 松井信平〔代理・向井俊貴〕）

・OS について、単変量多変量解析を施行。G3、遠隔転移、R2 手術が、多変量で残った。

・LAMN を含めた粘液腺癌では、Grade 毎、Stage 毎の生存率に既報通りの差を認めた。

・粘液腺癌以外の腺癌でも、Stage 毎の生存率は分かれた。特に、Stage IV では、粘液腺癌よりも予後が悪かった。

4 論文テーマについて LAMN に関して（都立駒込病院 外科 山口達郎）

・LAMN の対象症例が確定出来次第、解析を開始する。

(村田) LAMN か腺腫か確定できていない 70 例に関して、標本を見直す作業は今回の研究計画に入っていないため、新たな計画を立て直す必要があり、現時点では行わない。

5 論文テーマ提案 腹腔鏡手術に関して（大阪急性期・総合医療 C 井上彬）

・大腸癌に対する腹腔鏡下手術の有用性に関する報告は、多数のランダム化比較試験がされているが、虫垂癌は含まれていない。

・虫垂癌に対する腹腔鏡下手術の治療成績を開腹手術と比較し、その治療成績を明らかにする。評価項目は、長期成績(OS, DFS, CSS)、短期成績、術後合併症、再発形式など。

・分子腫瘍学的に、虫垂癌は大腸癌と全く異なる。虫垂癌は術前に診断される割合が少ない。

・(村田) 虫垂腫瘍は虫垂炎として手術されることも多いが、虫垂炎に対する開腹と腹腔鏡の割合は？ (井上) データは無い。

(帝京大学 橋口陽二郎) 介入研究の Retrospective 研究なので、propensity score matching をして解析するのが良いのではないか。

(村田) 大阪急性期・総合医療 C の登録数は 7 位であるが、他の施設から異議がなければ、論文を書く権利を与えたい。もちろん、他のテーマも出していただければ、データをお渡しする。